

令和8年4月13日
国土交通省関東地方整備局
荒川下流河川事務所

首都圏を災害から守り、安心して暮らせる荒川流域を目指して

～令和8年度 荒川下流河川事務所の事業概要～

令和8年度、荒川下流河川事務所の事業概要を紹介します。

荒川下流部の岩淵水門付近から東京湾河口にかけて人工的に開削された荒川放水路は、わが国の社会経済活動の中枢を担う東京都及び埼玉県を貫流する、国土管理上、最も重要な河川の一つです。これまで一度も決壊することなく、東京都及び埼玉県の沿川都市の発展を支えるとともに、荒川下流部の貴重なオープンスペースとして地域に寄り添ってきました。

引き続き、首都圏を洪水から守るとともに、今後より一層の安心、安全の確保、豊かな自然環境や快適な利用環境の創出を目指すべく、事業を進めてまいります。

この度、荒川下流河川事務所における令和8年度の事業概要をまとめましたので、ご紹介します。詳しくは、次頁以降の事業概要資料をご覧ください。

<発表記者クラブ>

竹芝記者クラブ 埼玉県政記者クラブ 都庁記者クラブ 神奈川建設記者会 川口市記者クラブ

<問い合わせ先>

関東地方整備局 荒川下流河川事務所

電話：03-3902-2311（代表） メールアドレス：ktr-arage-press@ki.mlit.jp

副所長（事業） 藤井（ふじい）

副所長（管理） 杉山（すぎやま）

総括地域防災調整官 菅野（すがの）

工務課長 剣持（けんもち）

管理課長 赤羽（あかば）

令和8年度 荒川下流河川事務所 予算総括表

(単位:百万円)

予算科目	令和8年度 事業費	前年度 事業費			対前年度比
	当初予算	当初予算	補正予算	計	当初予算比較
河川整備事業費	7,537	5,922	3,609	9,531	1.27
河川改修費	6,288	4,585	3,069	7,654	1.37
一般河川改修事業	617	338	13	352	1.82
流域治水整備事業	40	40	15	55	1.00
特定構造物改築事業	5,631	4,207	3,040	7,247	1.34
河川維持修繕費	1,209	1,234	355	1,589	0.98
河川工作物関連応急対策事業費	40	103	185	288	0.39
都市水環境整備事業費	1,426	3,291	0	3,291	0.43
河川都市基盤整備事業費	1,282	3,135	0	3,135	0.41
総合水系環境整備事業費	144	156	0	156	0.92
総合流域防災事業費	15	19	45	64	0.80
総合流域防災対策事業費	15	19	45	64	0.80
事業費計 (諸費等を除く)	8,978	9,232	3,654	12,886	0.97

※上記のほか諸費等があります。

※四捨五入の関係で合計値が合わない場合があります。

令和8年度 事業概要



荒川下流 2026

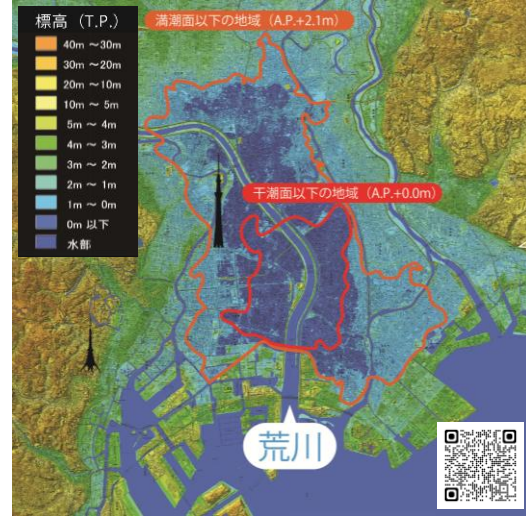


国土交通省 関東地方整備局
荒川下流河川事務所

荒川の概要・荒川放水路の歴史

荒川の下流域は地下水や水溶性天然ガスなどのくみ上げによって、戦前から昭和40年代にかけて広域地盤沈下が発生しました。堤防や市街地が沈下し、満潮位以下の土地（いわゆるゼロメートル地帯）が広く存在しています。一方で、人口や資産も極度に集中していることから、治水対策を進める事が非常に重要です。

荒川下流河川事務所は、荒川下流部の約30km（荒川の笹目橋から河口まで）の区間で様々な施策を行っています。

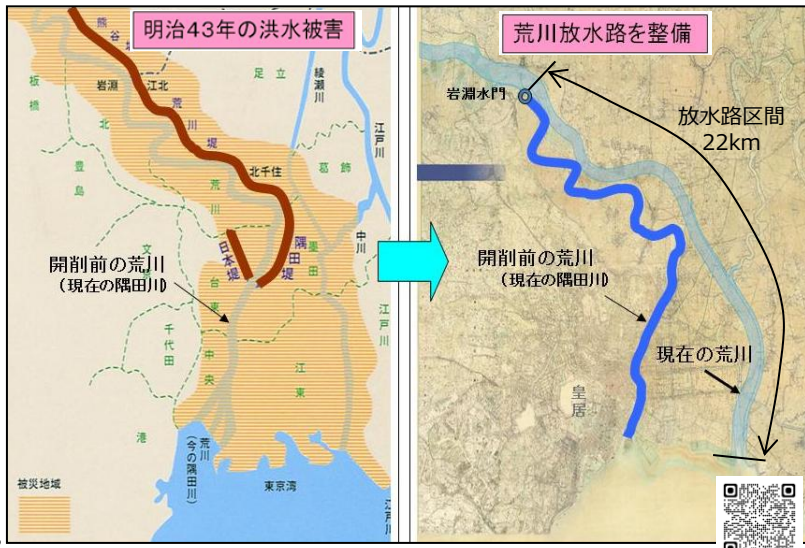


荒川放水路建設

荒川の下流部のうち、岩淵水門付近から下流の約22kmは、洪水から首都圏を守るため昭和5年（1930）に完成した人工的に開削された放水路です。

荒川（現在の隅田川）周辺では、江戸時代から明治時代にかけて、洪水が頻発していました。特に明治43年（1910）洪水は大きな被害をもたらしました。この洪水を契機として、洪水対応能力を向上させるため新たな放水路（現在の荒川）を建設することとなりました。

岩淵の下流から中川の河口方面に向けて、延長22km、幅500mの放水路を開削し、北区の岩淵に水門を造り本流を仕切り、大正13年（1924）に通水し、昭和5年（1930）に荒川放水路として完成しました。



明治43年洪水



現在の錦糸町付近



人力掘削の様子（土運搬状況）



蒸気掘削機による機械掘削の様子

流域のあらゆる関係者の協働による、ハード・ソフト一体の水災害対策「流域治水」を推進します。

令和8年度予算内訳

事業目的	予算額(百万円)
● 治水対策、危機管理に関する事業	7,585
● 環境の保全に関する事業	144
● 維持管理に関する事業	1,249

合計 8,978 (百万円)

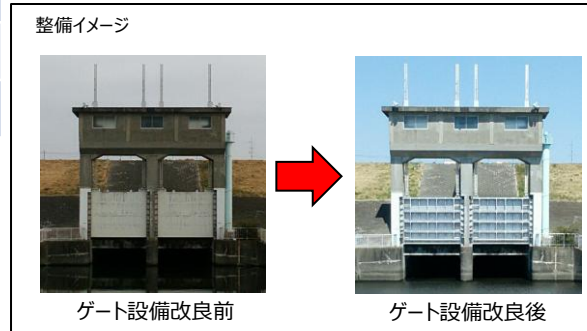
※上記のほか、受託工事費、工事諸費等があります。

令和7年度補正予算内訳

事業目的	予算額(百万円)
● 治水対策、危機管理に関する事業	3,114
● 維持管理に関する事業	540

合計 3,654 (百万円)

① 綾瀬排水機場樋管ゲート設備改良
老朽化したゲートを耐久性の高い材質に更新することで施設の安全性向上を図ります。



凡例

● : 令和8年度事業予定箇所



荒川下流管内区間

首都圏大規模水害から街を守る 危機管理対策

防災拠点整備

⑤ 平井七丁目地区河川防災拠点整備

災害対応に必要な資材の備蓄ヤードを新たに造成し、災害復旧時の機能強化を図ります。

首都圏大規模水害から街を守る 治水対策

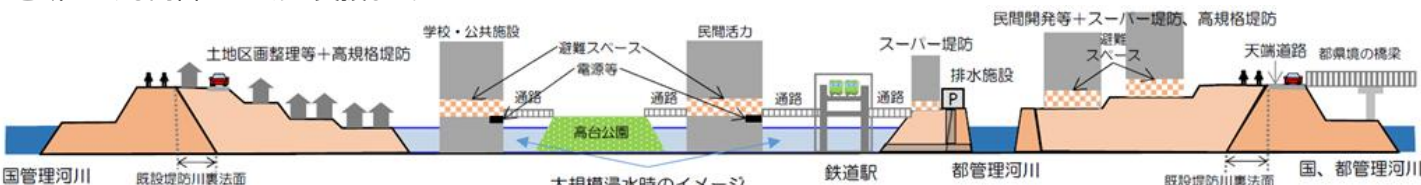
高台まちづくり

④ 川口地区高規格堤防整備



高規格堤防を整備し、その上面を活用した高台まちづくりを推進します。

国、都、地元自治体等が一体となり、避難のあり方や排水対策等を踏まえた高台まちづくりのあり方の検討や、モデル地区などの具体的な地域における高台まちづくりを支援します。



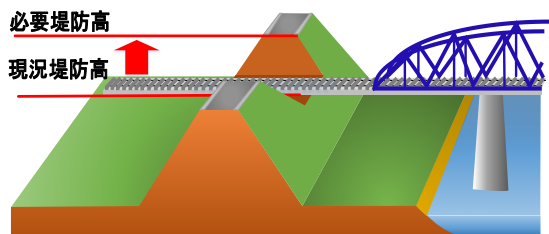
主要事業

首都圏大規模水害から街を守る治水対策

京成本線荒川橋梁架替事業

②京成本線荒川橋梁架替

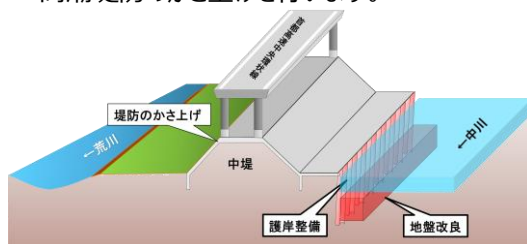
周辺の堤防高さに対して低い堤防をかさ上げするため、支障となっている橋梁を架替えます。



高潮対策

③北葛西二丁目地区高潮対策

高潮堤防のかさ上げを行います。



地域や市民との連携の推進

かわまちづくり

自治体、民間事業者、住民、河川管理者が連携し、河川空間とまち空間が融合する良好な空間づくりを目指します。

⑥板橋区かわまちづくり

⑦北区岩淵周辺地区かわまちづくり

<整備イメージ>



<整備イメージ>



※パース図はイメージです。

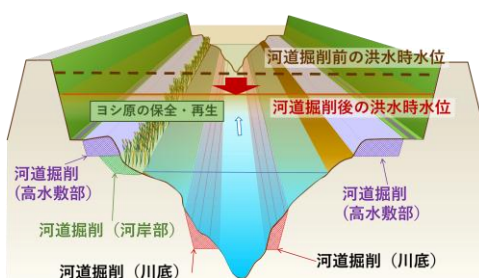


治水対策と良好な環境の保全の両立

河道掘削、ヨシ原や干潟の保全・再生

⑧松島地区他高水敷掘削

河道掘削の形状を緩傾斜にすることで、洪水を安全に流下させるとともに、水際部から高水敷のつながりを確保し、ヨシ原や干潟の保全・再生を行っています。



河道掘削についてはコチラ



河岸再生についてはコチラ



主要事業

安全性を持続的に確保するための維持管理

■ 巡視や点検等を行い災害に備えるとともに、誰もが安心して利用できる荒川を目指して維持管理を行います。

(1) 治水機能を支える維持管理

堤防点検、水門等の河川管理施設の保守・点検



デジタル河川管内図による維持管理検討



堤防点検

河川巡視とともに、出水期の前などに職員が堤防を中心とした施設の状態を把握し、修繕等の対応するため堤防点検を行っています。



荒川デジタル河川管内図（下流域）

令和3年度に公開した荒川デジタル河川管内図（下流域）を活用した河川業務の効率化・高度化を進めます。

(2) 安心・快適な河川利用の促進

荒川下流河川敷利用ルールの周知



荒川下流部の河川敷を誰もが安全で快適に利用出来る環境を目指し、沿川の自治体等と荒川下流河川敷利用ルールを策定・運用、河川敷利用者への周知啓発に取り組んでいます。

荒川下流河川敷利用ルールの詳細についてはコチラ



適正利用の詳細についてはコチラ



安全利用点検



安全利用点検

河川に人が集まるGW及び夏休み前に、河川空間を安心して利用していただくため、施設の点検を実施します。

主要事業

地域や市民との連携の推進



■ 社会情勢の変化や地域社会のニーズに的確に対応した河川の計画・整備・維持管理・利用等を行うため、地域と国、住民と行政とのパートナーシップを深めていきます。

荒川水辺サポーター



荒川水辺サポーター（千住桜木地区）

企業や市民団体からなる「荒川水辺サポーター」と、「沿川自治体」、「荒川下流河川事務所」の3者が連携して協働で自然地の維持管理活動を実施しています。

荒川クリーンエイド



荒川クリーンエイド

市民やNPO、沿川の自治体などと協力し、自然豊かできれいな荒川を取り戻すため、ゴミ拾い活動を進めています。

水辺の賑わいの創造（ミズベリング）



荒川ロックゲート・ヒル勉強会

住民、企業、行政と連携し、賑わい、美しい景観、豊かな自然環境を備えた水辺空間をまちづくりと一体となって創出します。

水辺の楽校



北区・子どもの水辺

子供達の自然体験や環境学習を支援するため、地域の方々及び地元自治体と協力して河川空間の整備しています。

Topic1 板橋区かわまちづくり

● 第1期事業として連絡通路が完成

2022（令和4）年度から、板橋区と荒川下流河川事務所は、荒川堤防と新河岸陸上競技場を結ぶ連絡通路の整備を共同事業として進めてきました。

第1期事業として整備を進めてきた連絡通路が令和8年3月末に完成したことから、第2期事業である河川区域内の整備へ移行する節目にあたり、これまでご協力いただいた関係者の皆様をお招きし、令和8年3月30日に板橋区と共催で「板橋区かわまちづくり連絡通路完成式」を開催しました。

当日は、国会議員の皆様からご挨拶をいただいたほか、テープカットや事務所からの工事報告を行いました。



Topic2 荒川DX（デジタルトランスフォーメーション）の取り組み



● デジタル技術等を駆使した河川管理の高度化、行政サービスの向上と働き方改革への挑戦

河川管理業務の高度化及び河川利用者の利便性向上等を目的として、「荒川デジタル河川管内図」の公開をはじめ、リアルタイム映像伝送・トラッキングを組み合わせた河川巡視、チャットボットの導入など河川管理DXに取り組んでいます。

また、新たな試みとして、こうした技術を広く収集するため、技術情報提供依頼(RFI: Request For Information)を実施し、当事務所管内をフィールドとした現場実証を行いました。

① 河川巡視、状況把握におけるリアルタイム映像伝送・トラッキング

河川巡視等で現地リアルタイム映像を伝送することにより、関係者の情報共有が円滑に行われ、点検作業の迅速化、精度向上とともに、対応時間を短縮。この取組は、第7回インフラメンテナンス大賞優秀賞や2024年度グッド・プラクティス賞を受賞しました。



小名木川出張所

現地・出張所・事務所と関係者みんなで意思疎通が可能

ウェアラブルカメラの導入

② 『チャットボット』導入による利便性向上

ホームページ上にチャットボットを開設し、1アクションで必要な情報を24時間提供可能にしました。

また、令和6年5月から
は事務所・出張所の電話自動応答も試行しています。



チャットボットの導入



Topic3 荒川クリーンエイド

● 荒川クリーンエイドは、荒川放水路通水70周年（1994年）を機に始まり、30年以上にわたり清掃活動だけでなく、環境教育や啓発活動なども取り組んでいます。河川清掃には毎年約1万人が参加し、いまや荒川に欠かせない活動となっています。こうした継続的な取り組みが評価され、2025年度には多くの賞を受賞しました。

荒川下流部の水と緑の空間は、都市部では貴重なオープンスペースであり、多様な自然が共存しています。この環境を未来へ引き継ぐためには、流域に関わる皆さまのご理解とご協力が欠かせません。荒川クリーンエイドは、地域の皆さまをつなぎ、ともに荒川の環境を支える取り組みへと成長しています。

・令和7年度 主な受賞について
 「第27回日本水大賞 市民活動賞」
 「令和7年度手づくり郷土賞 国土交通大臣表彰」
 「第9回インフラメンテナンス大賞 優秀賞（国土交通省）」
 「東京都公園協会賞 ボランティア/社会貢献部門 優秀賞」



写真: 手づくり郷土賞認定証伝達式
 NPOの荒川クリーンエイド・フォーラム
 沿川自治体のみなさま
 国土交通省荒川下流河川事務所

荒川下流河川事務所について

荒川下流河川事務所

■ 国土交通省 関東地方整備局
荒川下流河川事務所

〒115-0042
東京都北区志茂 5-41-1
TEL : 03-3902-2311 (代表)
<https://www.ktr.mlit.go.jp/arage/>



- 荒川下流河川事務所へのアクセス
JR線赤羽駅より徒歩20分
地下鉄南北線赤羽岩淵駅または志茂駅より徒歩15分

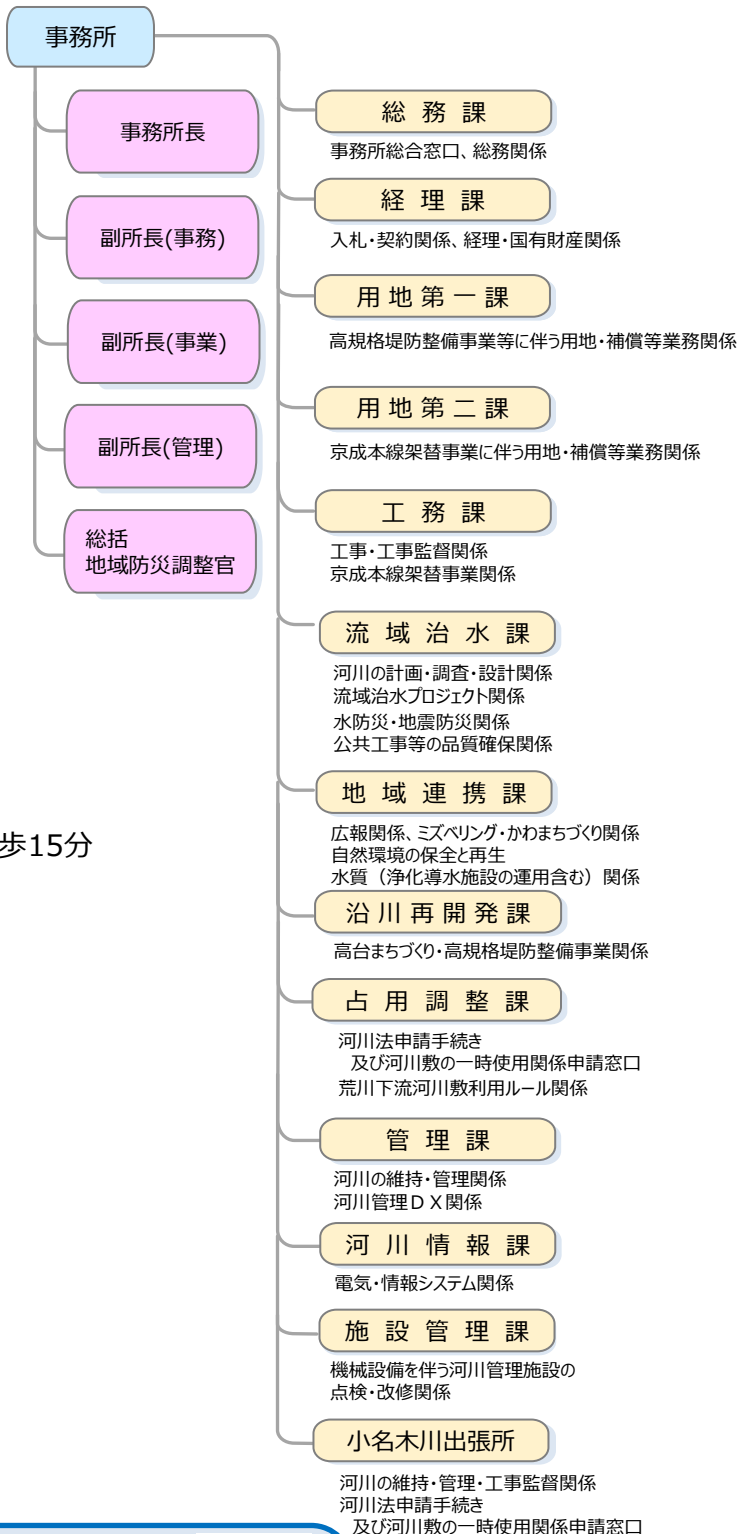
■ 小名木川出張所

〒136-0072
東京都江東区大島 8-33-26
TEL:03-3681-6131 FAX:03-3683-7453



- 小名木川出張所へのアクセス
都営新宿線東大島駅より徒歩 5分

令和8年度の組織図



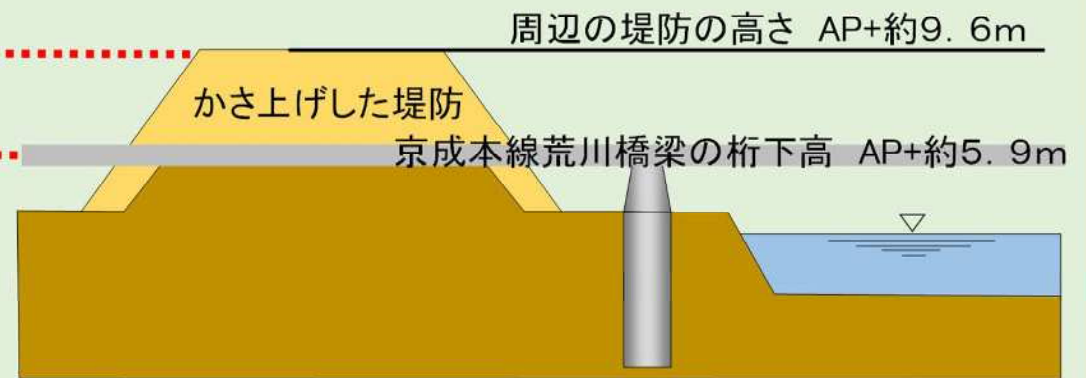
事務所HP X Instagram Youtube



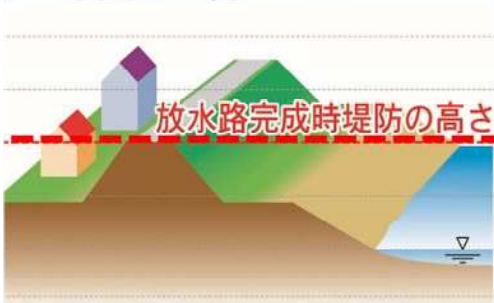
京成本線荒川橋梁

- 京成本線荒川橋梁は、荒川放水路の開削工事の際に架設されました。その後、広域的な地盤沈下が発生したため、対策として堤防のかさ上げを行いました。橋梁及び周辺の堤防の高さは低いままとなっています。
- 現在、橋梁の桁下高は周辺の堤防の高さに対して約3.7m低く危険な状態となっています。
- 事業の目的は、洪水を安全に流下させるために堤防をかさ上げすることで、堤防のかさ上げに支障な京成本線荒川橋梁及び綾瀬川橋梁の架替工事を行うものです。

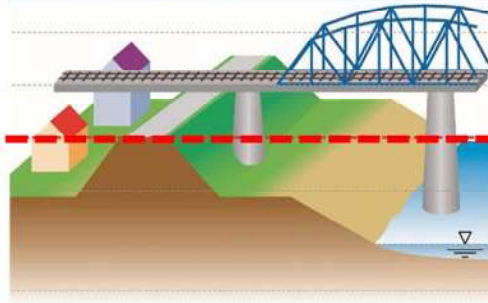
京成本線荒川橋梁の桁下高は 周辺の堤防の高さに対して約3.7m低い



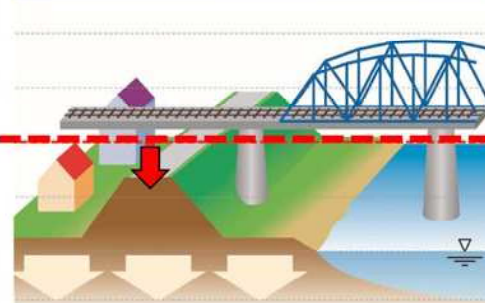
荒川放水路完成
(昭和5年)



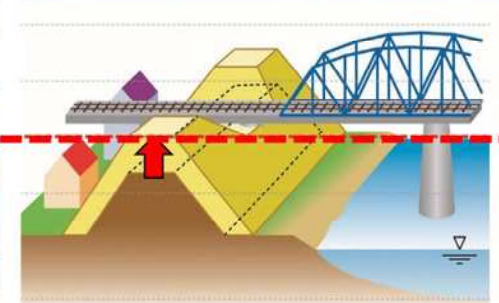
京成本線荒川橋梁完成
(昭和6年)



地盤沈下
(高度経済成長期)



堤防かさ上げ実施



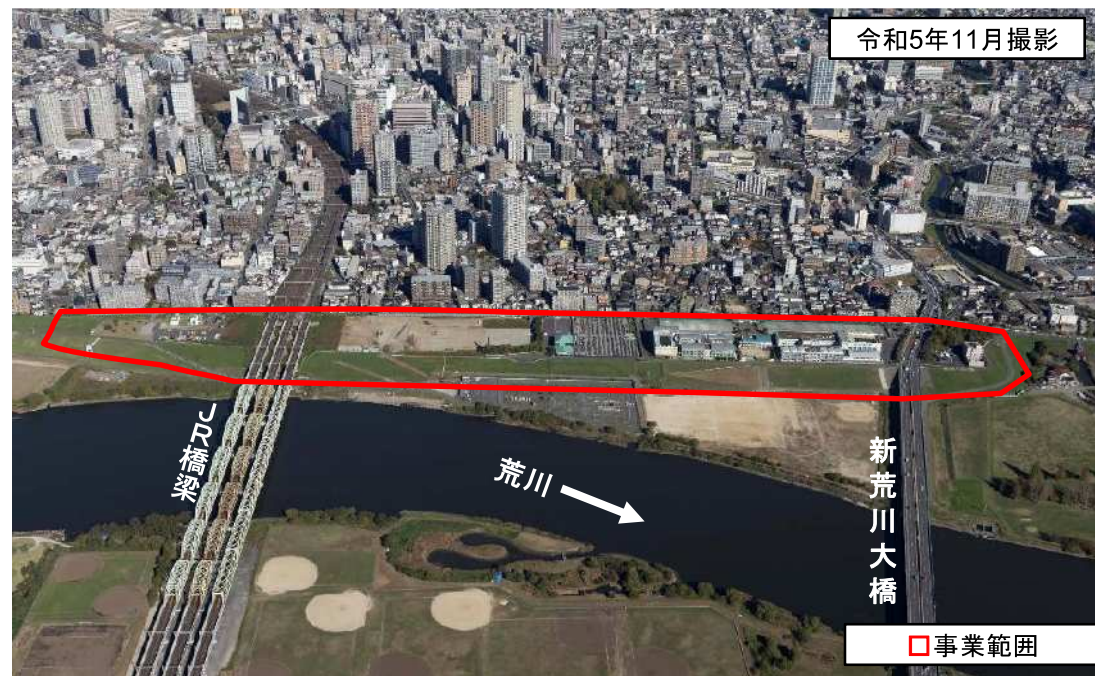
川口地区 高規格堤防



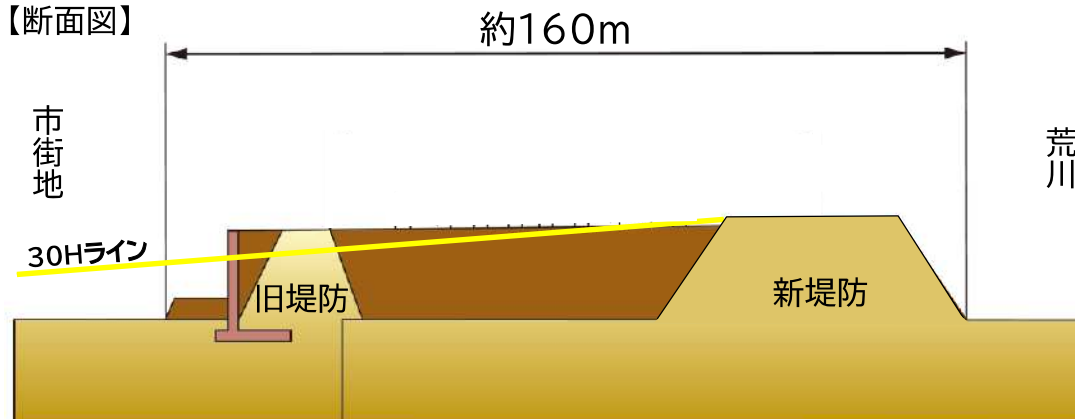
【事業の概要】

荒川に面する新堤防と、市街地側にある旧堤防の間を盛土して一体化する高規格堤防整備事業として実施

【完成イメージパース】



【断面図】



【位置】 埼玉県川口市

【計画諸元】

- ①工期： 平成4年度～
- ②面積： 12.7ha
- ③延長： L=1,340m

【共同事業者】

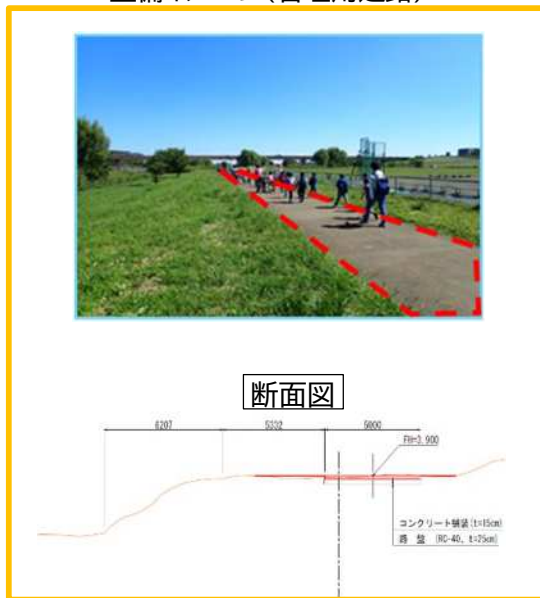
川口市、寺院、自動車教習所ほか

板橋区かわまちづくり 整備イメージ

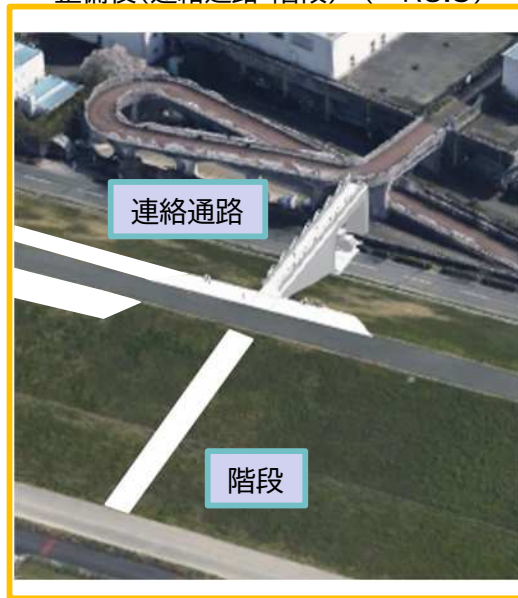


<全体整備 (案)>

<整備イメージ(管理用通路)>



<整備後(連絡通路・階段) (～R8.3)>



<利活用イメージ>





広場や親水護岸の整備により河川敷でのイベントやアクティビティが充実し、トイレや休憩スペースの設置によって快適に長時間滞在できる環境が整う。また、既存の坂路や階段の拡幅により、まち側からのアクセスや河川敷内の回遊性が向上する。